

トビウオ通信 (H20 第 5 号)

<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《平成 20 年度上半期浮魚中長期漁況予報》

平成 20 年 3 月に長崎市において開催された東シナ海～日本海西南海域にかけての対馬暖流域における主要浮魚類の長期漁況予報会議の内容に、5 月 19 日に日本海区水産研究所が発表した「平成 20 年度日本海マアジ長期漁況予報」を加味して、山陰沖のまき網漁業が対象とする主要浮魚の平成 20 年度上半期（4～9 月）の中・長期的な漁模様の予測をします。

山陰沖における漁況(来遊)予報〔平成 20 年上半期(4～9 月)〕

マアジ:前年を下回る マサバ:前年並み カタクチイワシ:前年・平年を上回る

ウルメイワシ:前年を下回り、平年並み マイワシ:前年・平年を上回る

※「平年」：過去 5 年（平成 14～18 年の 4～9 月）の平均値、「前年」：平成 19 年 4 月～9 月

マアジは前年を下回る

東シナ海～日本海南西海域の漁況と

今後 東シナ海～日本海南西海域における大中型まき網によるマアジのここ数年の漁獲量は、減少傾向にあり、平成 19 年は 1 万 9 千トンと前年の約 6 割と低調に推移しました（図 1）。これは東シナ海中南部海域の漁獲量が大きく減少したためです。沖合域の漁況は今後も低調な傾向が続くと推定されています。

一方、同海域の沿岸域における平成 19 年後期（秋～冬期）の漁獲状況は、前年並みかやや下回っており、今後も同様の傾向が続くと推定されています。

山陰沖の漁況と今後 島根県の中型まき網による平成 19 年のマアジの漁獲量は約 3 万 3 千トンで、前年の 1.4 倍となりました（図 1）。毎年、島根県、鳥取県および日本

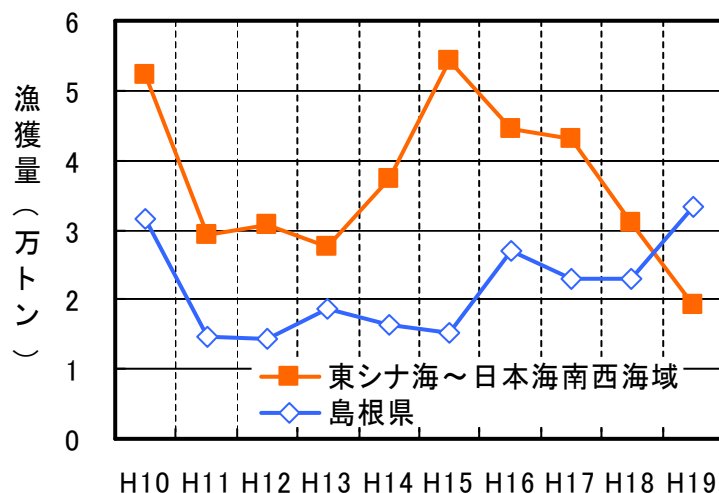


図1. 東シナ海～日本海南西海域(大中型まき網)および島根県(中型まき網)のマアジ漁獲量の推移

海区水産研究所では、マアジの稚魚（当歳魚）が山陰沖にどの程度来遊するかを調べるためマアジの加入量調査を行っています。この調査では山陰沖へのマアジ来遊量の多寡を加入量指数で表します。つまり、加入量指数が高いと来遊量は多いと推定されます。また、鳥取県では境港に水揚げされるまき網でのマアジの稚魚（当歳魚）の漁獲尾数を調べています。これらの結果をみると、平成19年の漁獲の主体となったH18年生まれ（1歳魚）は、来遊量はH15年生まれを大きく下回ったものの、H16年～H17年生まれと同程度と推定されました（図2）。ところが、まき網1ヶ統あたりの漁獲尾数はH16年～H17年生まれより多く、月別の漁獲動向から判断すると、春期から秋期にかけて長期にわたり山陰沖に漁場が形成されたと考えられます（図3）。よって、平成19年は来遊量は多くはなかったものの、山陰沖での漁場形成が長期にわたった結果、前年を上回る漁況となったと考えられます。

今後の漁獲の主体となる1歳魚（H19年生まれ）の来遊量は、加入量指数をみると近年では高い数値を示していますが、境港に水揚げされるまき網1ヶ統あたりの漁獲尾数をみると前年ほど多くはありませんでした（図2）。一方、最近の漁獲状況を見ると（図3）、平成20年は4月までの漁獲量が前年・平年を下回って推移しています（前年の4割、平年の6割）。当歳魚（H20年生まれ）の予測は難しいものの前年並みとしても今期の漁況は前年を下回ると推定されます。

マサバは前年並み

東シナ海～日本海南西海域における大中型まき網によるマサバの

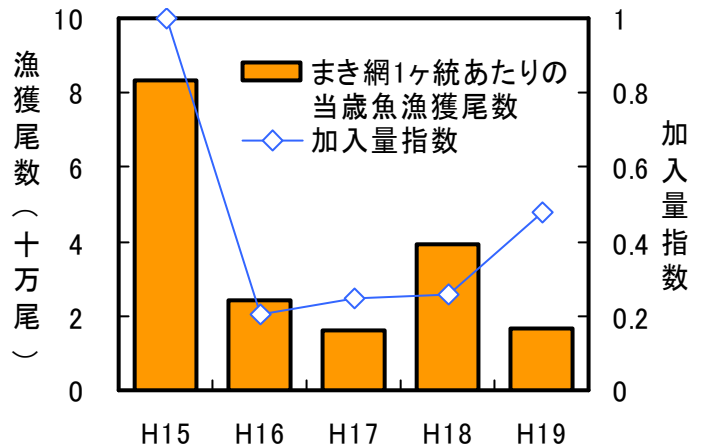


図2. まき網1ヶ統あたりの当歳魚漁獲尾数と加入量指数(資料提供:鳥取県水産試験場)
※加入量指数はH15年を1とした場合の比

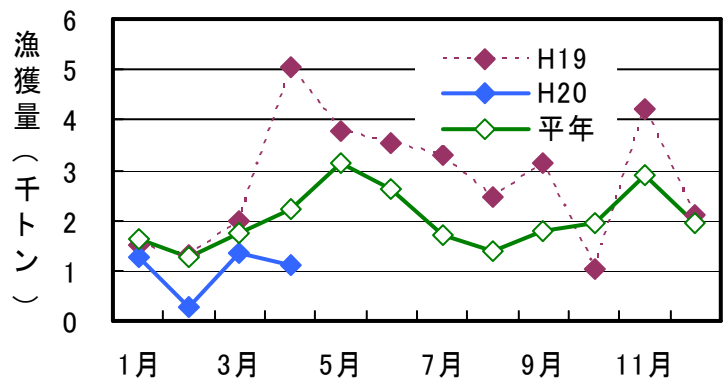


図3. 島根県中型まき網によるマアジ漁獲量の月別推移

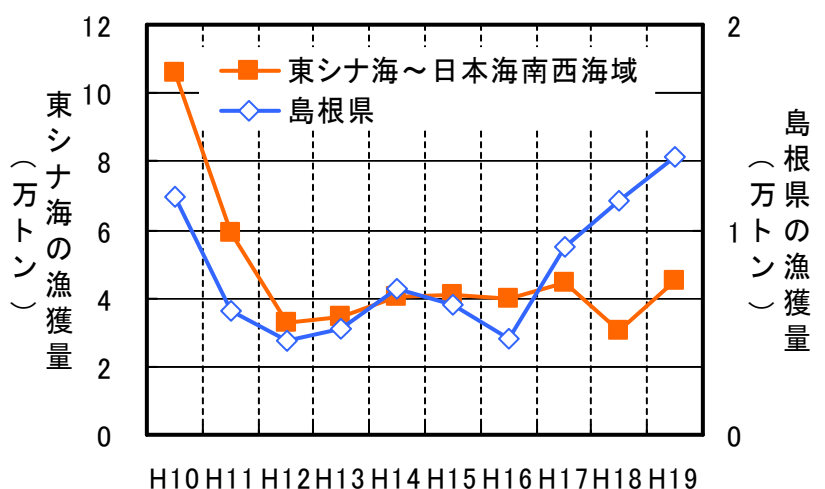


図4. 東シナ海～日本海南西海域(大中型まき網)および島根県(中型まき網)のマサバ漁獲量の推移

漁獲量は、近年は低位横這いで、資源水準は依然として低い状態にあります（図 4）。平成 19 年の漁獲量は約 4 万 5 千トンと前年の約 1.5 倍となりました。

島根県の中型まき網によるマサバの漁獲量は平成 17 年以降増加傾向であり、平成 19 年は約 1 万 4 千トンで、前年の約 1.2 倍、平年の約 1.5 倍となりました。

平成 20 年の漁獲状況は 4 月までは前年・平年を下回る漁獲量（前年の 1 割、平年の 3 割）で低調に推移しています（図 5）。今後の漁況については 9 月以降が漁獲の主体となると考えられますが、漁獲の中心となる 1 歳魚（H19 生まれ）の資源水準が前年並みであることから、今期の漁況は前年並みと推定されます。

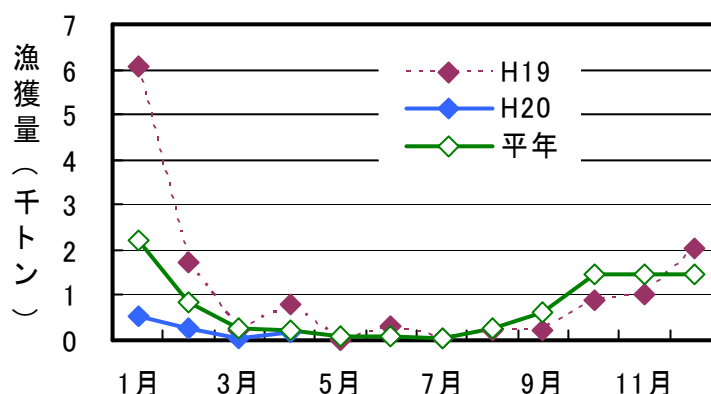


図5. 島根県中型まき網によるマサバ漁獲量の月別推移

カタクチイワシは前年・平年を上回る

島根県の中型まき網によるカタクチイワシの漁獲量は、平成 13 年以降低調に推移していますが、平成 19 年の漁獲量は約 1 万 1 千トンと、前年の約 1.2 倍となりました（図 6）。また、平成 20 年は前年同様に 1 歳魚を主体に 3 月以降好漁が続く、4 月までの漁獲量は約 1 万 2 千トンで、前年の 3.1 倍、平年の 2.4 倍で推移しています。カタクチイワシは平成 17 年以降春期発生群の加入は近年では高い水準にあるとされており、今期の漁況は前年・平年を上回ると推定されます。

ウルメイワシは平年を下回り・前年を上回る

島根県の中型まき網によるウルメイワシの漁獲量は、平成 14 年以降はやや増加傾向にあり、平成 18 年は落ち込んだものの、平成 19 年は約 6,500 トンと前年の約 1.6 倍となりました（図 6）。平成 19 年生まれの加入量は近年では高い水準であり、平成 20 年生まれはそれと同程度か下回ると推測されています。また、平成 20 年は 3 月以降 1 歳魚を主体に前年・平年を上回って漁獲されています（前年比：15 倍、平年比：1.6 倍）。これらのことから今期の漁況は、漁場が形成される時期にもよりますが、平年は下回るものの前年並みに推移すると考えられます。

マイワシは前年・平年を上回る

島根県の中型まき網によるマイワシの漁獲量は平成 15 年以降やや回復傾向にあり、平成 19 年の漁獲量は約 3,400 トンと前年の約 2 倍となりました（図 6）。平成 20 年は 2 月以降 1 歳～2 歳魚を主体に好漁が続く、4 月までの漁獲量は約 2,800 トンで、前年の 1.5 倍、平年の 29 倍となっています。近年、マイワシにとって加入条件が良い年が続いていると考えられており、夏期の漁場形成にもよりますが、今期は前年・平年を上回ると推定されます。ただし、資源水準は依然として極めて低いため、以前のような豊漁は当分先だと思われれます。

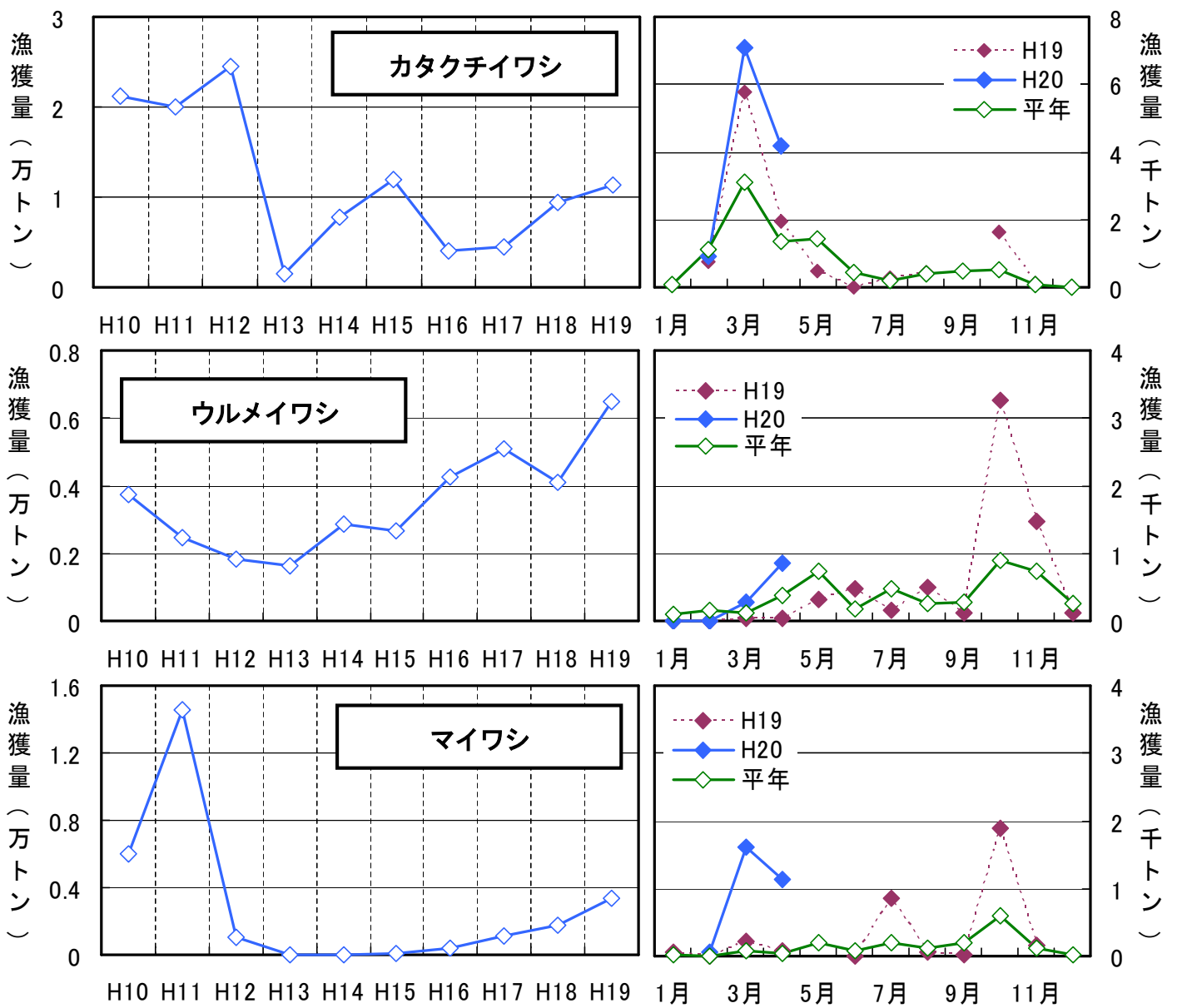


図6. 島根県中型まき網によるイワシ類の漁獲量推移 (左：年別、右：月別)

上段：カタクチイワシ、中段：ウルメイワシ、下段：マイワシ